

西東京市市民協働推進センター
平成22(2010)年度第8回運営委員会会議録(確定稿)

開催日時：平成22年12月21日(火) 午後7時～8時30分
開催会場：イングビル3階 第2会議室
出席委員：有賀委員、有馬委員、熊田委員、小林委員、田辺委員、中曽根委員、原委員、宮崎委員、
吉田委員
<以上9名、五十音順>
事務局：西口センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事

1. 報告事項

1. 西東京市市民協働推進センターの業務報告について

11月期の月次報告について事務局が説明

事務局：「NPO市民フェスティバル第2回実行委員会」は9名が参加しサブタイトルを相談した。昨年は『こんな市民活動があったのか！西東京』であったが、今年は『相・逢～ささえあいめぐりあい～』に決定した。小冊子は500部作製する予定である。また、役割分担を相談し、中澤と西口は事務局として位置付けることにした。「コミュニティビジネス(CB)講座」3回目は9名、4回目は7名の参加があった。参加者は昨年の半分くらいであったが、参加者の1人から4回の受講で終わりにするのではなく、何らかのつながりを継続したいとの声があり、ゆるやかな関係性を持ちながらということで12月12日(日)にCB講座フォローアップの集いを持った。サロンコーナーで9名(うち1名は昨年の参加者)が参加し、2カ月おきにミーティングを持つことにした。今後少しずつ何かができればと考えている。西東京市市民まつりに参加した。協働コミュニティ課のブースに出店する形で参加し、センターの事業説明や約10の登録団体のチラシを展示配布した。第2回「専門相談会」は、NPO団体の会計・税務をテーマに開催し、2団体から相談があった。経理処理の仕方をアドバイスしていただいたり、行っている事業の内容が収益事業か否かの質問に、収益事業には当たらないとの見解をいただいたりした。「トークサロン 葬式はどう変わろうとしているか」は、ゲストに有馬委員を迎え9名の参加者で実施した。前半は<いまどきのお葬式>、後半は<葬式をどう考えればよいか>について話し合った。参加者は、自分の葬式をどうデザインしていくかを自ら問いかけることとなった。某社の葬儀サービス「お布施」の目安価格の資料も配布された。11月の新規団体登録は「西東京市子どもの権利に関する条例の実現をすすめる会」と「特定非営利活動法人生活企画ジェフリー」の2件。相談事例としては、NPO法人の設立に向けて定款と設立趣意書(案)について相談されたので、数カ所アドバイスした。

委員長：関わった委員の方から報告をお願いしたい。トークサロンはどうだったか。

委員：関心の高いテーマなので、興味を持って聞いてくれた。範囲の広いテーマなのでよそで聞くことができないような話に絞った。

委員長：市民葬の普及・啓発の取り組みをされているようだが、参加者は年齢の高い方が多かったのか。

委員：その通りだ。

委員長：CB講座から有志の会を作るといような新しい動きが出てきているが、具体的にはどのような内容なのか。

委員：去年と今年の参加者で交流をしたいということで会合を持った。去年の参加者が立ち上げたまちづくり研究会はメーリングリストで交流し何回か会合も持ったが休眠状態である。今後どのようにしていくのか話し合いを持ったうえで、今回の会にまちづくり研究会のメンバーが参加した。12日の会ではせっかく集まったのだから、何とかつながっていきたいということでメーリングリストを立ち上げ情報交換をしていこうということになった。1年目のメーリングリストも残っているので、各々の活動を情報交換し合っていき、ゆくゆくは今年のメーリングリストともつながっていきたい。このまちでCBを考えている人たちが意見交換をしたり、元気づけたり、交流したりする場としてメーリングリストを使っていきたくと話した。

委員長：少し動きが出てきたようだ。具体的な方向はこれから考えていくことになると思うが、つぼみから花へと進展を期待したい。

事務局：今年度の参加者の有志でサークルを作りNPO市民フェスティバルで発表することになった。また、

1 参加者のご夫婦も団体として参加する。
2 事務局：C Bの1期の方々はある特定のプロジェクトの遂行を主眼としていたが、2期の方々はC Bに興味の
3 ある人たちの土壌を作っていこうというスタンスである。たまC Bネットワークの西東京版というか、
4 ゆるりとしたネットワークを作っていこうと考えている。
5 委員長：生活企画ジェフリーが作った西東京市の女性の聞き書き集について興味がある。どこで手に入るか。
6 事務局：企画政策課、協働コミュニティ課、男女平等推進センターパリティで配布している。
7 委員長：ゆめこらぼの登録団体も46団体になったことだし、一堂に会して何かできる機会があるとよい。次
8 年度以降の検討事項としてほしい。
9 委員：この生活史は地域活動をジャンルごとにまとめている。あの年代の活動が今に引き継がれることが少
10 ない。世代をつなぐ取り組みはすごい。女性史としてばかりでなく地域の活動史としてとらえられる。
11 委員：あとがきに行政の方の個人名がでている。行政も協働に積極的であることを示している。
12 委員長：地域の取り組みを伝えていくことは大切である。トークサロンに来てもらってもよいのではないか。
13 事務局：すでに第6回トークサロンにゲストをお願いしている。NPO法人生活企画ジェフリーの渡辺美恵さ
14 んに『西東京市の女性の聞き書き集』の編さんこぼれ話を語っていただく予定である。

15 16 2. 12月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

17 12月以降の実施事業について事務局が説明

18 事務局：「2011 NPO市民フェスティバル」については、12月15日に第3回実行委員会を開き、12月22
19 日の参加団体向け事前説明会の準備をした。現在の申し込みは約40団体である。書類を提出してい
20 るのは30団体であるが、最終的には37~38団体程度になろうかと思う。企業では損保ジャパンの「ち
21 きゅうくらぶ」が参加する。シチズンは資料の配布のみの参加である。第2回「企業懇談会」は、ゲ
22 ストにエクアラニマルの豊永ひとみさんを迎え『企業が創り育てるNPOその熱き思いをトップが語
23 る』というテーマ設定で開催した。10名の参加があり、ゲストの熱い思いが伝わった。「行政職員と
24 市民活動団体の懇談会に向けての登録団体間の意見交換会」は参加団体9、参加者12名で実施。発
25 言メモは資料をご覧ください。中身の濃い意見交換会になったと思う。参加団体はNPO法人子ども
26 アミーゴ西東京、NPO法人稲門寺子屋西東京、NPO法人ハンディキャップサポートウーノの会、き
27 らっとシニア倶楽部、東大農場・演習林の存続を願う会、健康未来わいわいクラブ、ばんびの会、西
28 東京自然を見つめる会、でこぼこの9団体。1月26日には保谷庁舎にて行政職員と市民活動団体の
29 懇談会を開く予定である。12月12日は商工会主催の朝市に出店した。朝7時から10時までで、人
30 の流れは少なかったが楽しいつどいであった。「トークサロン~報道からみた冤罪(えんざい)・再審
31 事件」は、ゲストに元新聞記者を迎えて行く。裁判員制度により司法の世界に市民参加が始まり関
32 心が高まっている。また冤罪事件への市民の関心も高いので、このテーマを取り上げることにした。
33 「NPO市民活動ネットワーク第3回」は、ゲストにNPO法人西東京コミュニティひろばNCH事務
34 局長の嶋田安民さんを迎え、『地域に根付くネットワークとは』というテーマで話していただく。今ま
35 では団体相互のネットワークづくりについて話し合ってきたが、今回は個別の市民活動団体がそれぞ
36 れの関係者とどのようにネットワークづくりをしていくかという角度から話していただく。

37 委員長：いくつかの大事な取り組みが進んでいるが、「行政職員と市民活動団体の懇談会に向けての意見交換
38 会」について、参加された方が話し合われたことを教えてほしい。

39 委員：協働という言葉の意味がよくわからなかったが、参加された方の発言で「委託は行政と団体だけの相
40 互の関係だけだと力が弱いのでもう1者を巻き込むとよい」というコメントが参考になった。現在自
41 分の団体で行っている障がい者のスポーツ指導は委託事業であるが、下請け的な面もあり予算は少な
42 く、軽く扱われているのではないかという感もある。行政の人に生の現場を見ていただく機会を作っ
43 ていく。次年度以降はその発言を参考にして工夫していきたい。

44 委員長：「もう1者を巻き込むとよい」とは、どんな内容か。

45 委員：行政と市民団体は、どちらかが勝ちでどちらかが負けの関係になる。お金と情報を持っている行政が
46 勝ちになる。そこに別な観点からもう1者加える。

47 委員長：2者から3者の関係になって変わったか。

48 委員：こどもアミーゴ西東京は保護者に加わってもらった。保護者が市にニーズを伝えている。こどもアミ
49 ゴ西東京は保護者との対話の場をもっている。保護者のニーズに沿った活動が評価されている。

50 委員：プラスアルファの活動を評価されないが。

51 委員：市はそれぞれの部署でやるべきことを考えている。その所管分野を越えた活動をして、それは単に

1 よかったですねで終わる。

2 委員長：そういう意味では、市が褒めてくれなくても団体同士が活動を褒め合うのは大事だ。

3 委員長：他に参加した委員の感想を聞きたい。

4 委員：単年度でなく、複数年度で行われる協働があればよいと感じた。

5 委員：環境と福祉の団体では異なると感じた。環境団体は市に何か要求したことはない。ボランティアで活
6 動している。行政系の方が市民団体に入ると非常に強い。行政の動き方がわかっている。

7 委員長：「登録団体間の意見交換会における発言メモ」は、1月26日の懇談会にどう生かすのか。

8 事務局：協働コミュニティ課と相談して運営の仕方を考える。懇談会には協働コミュニティ課以外の関係部門
9 の方にも参加をお願いしたいと思っている。

10 委員長：福祉の分野での協働の仕方と環境の分野でのそれとは、同じに見えて違いがある。いろいろな協働の
11 形があることを確認できたことは意見交換会の一つの成果だ。また、行政側の立場にいる委員には、
12 市民活動団体と行政の上手な付き合い方など、話せる範囲で市民団体に情報提供してもよいのではな
13 いかと思う。いずれにしても今回は仕切りなおしの形で行い、どこまで到達できるかについて結果を
14 性急にもとめず、しかし今後につながるよう懇談会の準備を進めてほしい。

15 委員：協働で市民活動をしていると、行政や企業の人が「落としどころ」という言葉をよく口にする。初め
16 からある程度の結果を想定するのはいかがなものか。

17 委員長：あっちとこっちの言い分をどの辺で収めるかというやり方は、見た目はきれいだが、発展がない面も
18 ある。委員のような発想で臨むのが本来的にはよいのだろう。

19 委員：とりえず仮説を持っていてもよいのではないか。ただし、それにこだわらないでウイン・ウインの
20 新しい考え方が出たら改めればよい。仮説がないと議論が拡散して方向が見えなくなる恐れもある。

21 委員長：行政側が成熟していれば市民団体との対話に最後まで付き合ってもらえる。行政側が慣れていない場
22 合でも、せっかくこれから協働を進めていこうという気持ちになっているところに、具体的な形の見
23 えられない議論で疲れさせるのは良策でない。

24 委員：行政職員と市民活動団体との懇談会では、行政側から協働コミュニティ課しか参加しない可能性もあ
25 るのか。

26 事務局：多くの部署から出てほしいと考えている。市民側が要求を突きつけたり、団体交渉のような雰囲気にな
27 ったりするのは避けたい。

28 委員長：こんな協働をしてほしいと互いに言い合う形でなく、どういう協働があるのかをみんなで考えること
29 に主眼を置いてほしい。

30 事務局：意見交換会に出席いただいた方々を中心としながら、市のNPO等企画提案事業で活動している諸団
31 体と市の担当部門、それに合併10周年記念事業に取り組む団体にも参加してもらおうことを考えている。

32 委員：市が言う「市民活動団体協働事業」の「協働」がどういうことなのかを糸口に基本的な考え方を聞きた
33 いたいと思う。

34 委員長：市に問いたす形になるのはいかがか。一緒に考えるように持っていったらよいと思う。

35 委員長：ほかに質問や意見はあるか

36 委員：昨年より相談件数が少ないが。

37 事務局：昨年は相談件数の相談内容を広めにカウントしていた。今年は中身のある相談内容に限定している。
38 カウント方法の変更があったにせよ、ゆめこらぼの存在を市民にもっとPRする努力をしたい。

39 委員長：厳しいカウントの仕方でも、相談件数が増えることは重要だ。来年度に向けてカウントの仕方を含め
40 てあらためて検討する必要がある。

41 委員：公民館、エコプラザ、ゆめこらぼと市民活動のすみ分けがあいまいになっている。統括者同士が話し
42 合うことはできないか。

43 委員長：統括者同士の会合は可能か。

44 事務局：以前からインフォーマルな形でもエコプラザ、公民館の方などと意見交換の場を持ちたいと考えてい
45 る。ただ、それぞれ管轄組織が異なるのでハードルは高いと感じている。

46 委員長：ボランティア・市民活動センターなど連携できるところから始めてはどうか。取り組みの連携は次年
47 度以降の課題と考える。

48 委員：団体設立の相談などは1回やれば終了する。行政は実績の数字を要求するが、推進センターとしては
49 間口が広く、やむを得ない面もあろう。

50 委員長：推進センターのメインのようなものをわれわれで考えていくのがよいのではないかと思う。

51 委員：相談の内容ではなくて、コラボレーションそのものが市民のなかに入りにくい。そのコラボも外へ出

1 向いていく時期にきているのではないか。人が集まるところに行けば必ず相談する人がいる。公民館
2 などへ出向き話し合いをしてみると、C Bに興味を持っている若いお母さんたちもいると思う。
3 委員長：今後どのような手を打っていくか考えていきたい。

2. 審議事項

1. 2010年度第7回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録について

8 2010年度第7回運営委員会会議録の未定稿を確定稿とした。

3. 協議事項

1. 協働について

13 委員長：「協働」については、1月26日の行政職員と市民活動団体との懇談会の結果を踏まえてから意見交換
14 したい。

2. 報告事項の予算について

17 事務局：担当課から、平成23年度予算の見積もりを減額してほしいとの依頼があった。総額で20万円ほどの
18 減額になる。アドボカシー講座をなくし、専門相談会は「2日2回」を「1日2回」にした。期日が
19 迫っていたので事務局で対応し事後報告となった。

4. その他

1. 次回運営委員会日程について

24 事務局：次回は1月18日（火）午後7時から。場所はイングリル3階第1会議室。

26 以上をもって散会した。